



異常気象への対応は

町長 啓発に努める

〔大原〕台風接近時の避難所対応は。場所の周知徹底をしないか。

〔町長〕その都度、緊急の管理職会を開催している。基本的に旧町単位で保健福祉センターを開設していく。

〔大原〕北海道のような大規模停電では心配はないか。避難所の予備電源は充分か。

〔町長〕関西電力など隣接の供給と同様の事態にはならない。

予備電源は本所・支所・保健福祉センターに設置している。

〔大原〕自主防災組織の参加集落を増やす対策がさらに必要では。

〔町長〕現在、122集落の参加数。区長会や防災研修などで、さらなる参加を推進する。

〔大原〕防災士を増やす取り組みが必要とと思うが。

〔町長〕県内で716名。本町で18名の登録がある。今後、人数を増やし連絡会を立ち上げたい。



さらなる耕畜連携を

堆肥の 利用促進を 検討していく

〔大原〕堆肥センター稼働状況は。

〔町長〕今年度の生産量は約500tで散布実績は8月末で206tである。

〔大原〕利用量が減っているが、補助金廃止の影響では。

〔町長〕影響が出ていないかと考える。

〔大原〕利用促進のための方策は。

〔町長〕近く、農協がアンケートを取る予定だと聞いた。

今後、利用者や関係団体と協議し、対策を進めていきたい。

駅舎縮小の影響は

町長 JRとさらに交渉する

〔大原〕大山北側の玄関口である大山口駅の駅舎縮小案で、JRとの交渉状況は。

〔町長〕町が施工するという条件で、JRの予算で待合室と男女のトイレ、町費で多目的トイレを駅舎として建設する案が出ている。

JRの予算内で現状の待合室の面積が確保されるかは未定。

〔大原〕公民館の分館やサテライトオフィス誘致など、活用はできないか。

〔町長〕難しい。今後も交渉を続けていく。



大山の玄関口にふさわしい駅舎を